

すぐ休も夏 守ろう！交通ルール

家庭・地域で

子どもと一緒に再確認を

夏休みになると、子どもだけで出かける機会が増えます。子どもが当事者となる交通事故は、道路の横断中(横断歩道を含む)、遊んでいる最中や行き帰りの歩行中、登下校の時間帯(朝や夕方)に多く発生しており、飛び出しなど安全確認が不十分なことが原因となっています。また、小学3年生以上では自転車事故が多くなり、中学生・高校生ではさらに増加しています。

○道路では遊ばない

○道路では遊ばない

また、自転車に乗るときは「自転車安全利用五則」(本面下部参照)を守り、信号のない交差点や「止まれ」の標識のある場所では必ず一時停止するなど、周囲の安全確認を徹底するように繰り返し教えましょう。

子どもたちは見ている！
あなたの交通マナー

「子どもの交通安全ワンポイント」
○道路を渡る時は、横断歩道や歩道橋を利用する

○横断歩道を渡る時は、青信号でも右左を見て、車の運転手が自分を見ているか目と目を合わせて確認する

○子どもは大人のまねをします。子どものお手本となるよう、保護者や地域の大人たちが交通ルールやマナーを守りましょう。

青少年夏季育成プラン配布中

家庭・地域で子どもたちの

こころとからだを育む取り組み

6月2日に開催された青少年問題協議会において、平成29年度青少年夏季育成プランが策定されました。

このプランは、夏季期間に重点的に取り組んでいただきたいことを主に家庭や地域に提案するものです。

プランには、子どもたちがさまざまな地域活動や社会体験、自然体験などを通じ、自立性や社会性などを身につけることや、

65歳以上の方へ 「体力測定会」参加者募集

介護予防のセルフチェックに

近年、元気で活動的なシルバ1世代の方が増えています。健康長寿の秘けつは、体力低下のサインを見逃さず、介護予防の取り組みを見直すことです。体力を測定し介護予防や活動的な生活のきっかけにしてください。

○区内在住で、過去半年間体力測定がなかった65歳以上の方30人(運動習慣がない方を優先し、申込順。要支援・要介護認定者を除く) 無料

○7月18日(火)午前9時から各実施場所に電話または窓口で

地域で見守り支え合いマップづくりセミナー

「支え合いマップ」づくりで地域を再確認しよう

8/26(土)

社会福祉協議会では、「高齢者地域見守り支援事業」を実施しています。その一つとして「支え合いマップ」づくりを通して地域に住む人々のつながりを再確認し、支え合い活動について考えるセミナーを開催します。

○8月26日(土)午後1時半～4時45分 高年齢者総合福祉センター3階研修室(東陽6-2-17) 無料 申込順

○7月18日(火)から電話で

こうとう若者女性しごとセンター 8月度セミナー 参加者募集

8月も、就職活動を進めていくための基本的な知識から、仕事や生活の場でも活用できる実用的なスキルまで、幅広いテーマで講座を実施します。ぜひご参加ください。企業向けセミナーでは、社員が育つ職場づくりのコツをお伝えします

日程	対象	定員(申込順)	テーマ
8/3(木)15:00~17:00	企業向け	10社/20人	育成は、する方とされる方どちらが先か?人が育つための職場改革術
8/8(火)10:00~12:00	女性	10人	ビジネスの現場ですぐ使えるOAスキルアップ研修(Word中級編)
8/9(水)10:00~12:00	女性	10人	ビジネスの現場ですぐ使えるOAスキルアップ研修(Excel中級編)
8/18(金)10:00~12:00	女性	20人	こころを楽にする自分づくり講座
8/19(土)11:00~12:30	どなたでも	6人	“就活”ははじめの一步! わたしのキャリア棚卸し塾
8/23(水)13:30~16:00	どなたでも	15人	~これからのキャリアづくりのために~ 成功するカラーコーディネート術
8/24(木)10:00~12:00	どなたでも	20人	基本からしっかり履歴書・職務経歴書の書き方講座
8/29(火)10:00~12:00	女性	15人	より良い人間関係をつくる“褒め力”上達レッスン

※詳しくはお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。
※はじめて当センターをご利用の場合には、利用登録が必要になります。

10歳からの 子育て 思春期の入口に 立つわが子、 どうして忘れちゃうの?

宿題、持ち物、先生からのお願い、聞いているはずなのに...
自分で書くことが大切です。一方、分かっているのに行動しないのは、やらなくても本人が困った経験が少ないからかもしれません。約束を守らなくてもお母さんがやってくる、お友達から借りる、学校に予備があるなど、周囲の配慮が逆に本人の自覚を促す機会を失わせます。

「来月の日曜に遊園地に行く」という約束を子どもは忘れません。でも、学校からの「明日は〇〇を持ってきてね」という約束は忘れがちです。興味関心のレベルの違いでしょうか。本人にとつての優先順位の違いでしょうか。元々、人間は忘れる動物です。時間の経過と記憶量の相関関係を実験した心理学者のエビングハウスは、人は覚えたとことの半分を直後に忘れ、残った記憶は長く保持されるという「忘却曲線」を報告しました。記憶を維持するには「復習」が大切だと言っています。また、ベネディクト・キャリー著「脳が認める勉強法」には「忘却は学習の敵ではなく最高の友」、余計なことを忘れるおかげで脳は大事なことに集中できるのだとあります。そう言われれば、納得できそうな気もします。でも、日常生活の中で、約束を守れない状況が繰り返されると、忘れることは正常な脳の働きだと言って片付けられません。

このため、学校では連絡帳に予定や持ち物、宿題などを書かせます。やはり目に見え、忘れず、約束を守れた経験を増やそう

「学校で連絡帳を書く↓家で見て確認する↓実行する」というルーティンを身に付けられるように、学年があがっても家庭で連絡帳に目を通してあげることが大切です。

忘れず、約束を守れた経験を増やそう
忘れてしまった事実に向き合うことができれば次の改善につながります。「忘れて、約束を守ってくれなくて、とても困った」、「約束を忘れて、守ってくれてこんなに助かった」と大げさなくらいに伝えましょう。「できた」体験を増やしていくことで、「忘れない自分」を目指すことがうれしくなるのです。

○庶務課社会教育担当

☎(3647)9676
FAX(5690)6911